
平成30年度全国学力・学習状況調査結果からみる学力の傾向と対策

平成30年10月
小松島市教育委員会

はじめに

平成30年4月17日に、小学校第6学年および中学校第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要について、小松島市の児童生徒の学力の定着状況、学習・生活習慣の特徴や傾向と今後の取組について、以下の通りまとめました。

なお、「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施されています。

※ 全国学力・学習状況調査は、特定教科の学力や教育活動の一側面について測定したものであります。

本市では、本調査結果が学力全体を評価したものと捉えられ、学校間の序列化や過度な競争につながる恐れや、個人が特定される可能性があるため、学校ごとの数値結果（正答率や実数）の公表は行っておりません。

1 調査概要

(1) 実施日 平成30年4月17日（火）

(2) 調査実施人数

- ・小松島市小学校第6学年の児童 272人
- ・小松島市中学校第3学年の生徒 259人

(3) 実施内容

①教科に関する調査

- 国語，算数・数学 A：主として「知識」に関する調査
- 国語，算数・数学 B：主として「活用」に関する調査
- 理科：「知識」及び「応用」に関する調査

②質問紙調査

学習意欲・学習方法・生活習慣・学習環境等を問う

2 調査結果

(1) 教科全般に係る調査結果について

【小学校】

教 科	結 果
国 語	<p>全体の平均正答率は、A問題・B問題とも徳島県・全国と同等となっています。</p> <p>学習指導要領の領域別に県の平均正答率と比較すると、A問題・B問題とも「話すこと・聞くこと」は上回り、「書くこと」は下回っています。「読むこと」はA問題では上回り、B問題では下回っています。また、A問題における「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」はほぼ同等です。</p>
算 数	<p>全体の平均正答率は、A問題・B問題とも徳島県をやや下回り、全国を下回っています。</p> <p>学習指導要領の領域別に県の平均正答率と比較すると、A問題・B問題とも「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の全ての項目において、やや下回っています。</p>
理 科	<p>全体の平均正答率は、徳島県をやや下回り、全国を下回っています。</p> <p>主として「知識」に関する問題は、県の平均正答率を上回り、「活用」に関する問題は、やや下回っています。</p>

*徳島県内の小学生の平均正答率は、国語（A・B）、算数（A・B）、理科とも全国平均を下回っています。

【中学校】

教 科	結 果
国 語	<p>全体の平均正答率は、A問題・B問題とも徳島県をやや下回り、全国と同等となっています。</p> <p>学習指導要領の領域別に県の平均正答率と比較すると、A問題・B問題とも「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の全ての項目において、やや下回っています。</p>

数 学	<p>全体の平均正答率は、A問題・B問題とも徳島県を下回り、A問題は全国と同等ですが、B問題は下回っています。</p> <p>学習指導要領の領域別に県の平均正答率と比較すると、A問題・B問題とも「数と式」「図形」「関数」「資料の応用」の全ての項目において、下回っています。A問題の「数と式」は全国平均を上回っています。</p>
理 科	<p>全体の平均正答率は、徳島県・全国を下回っています。</p> <p>主として「知識」に関する問題は、全国の平均正答率とほぼ同等ですが、「活用」に関する問題は、下回っています。</p>

*徳島県内の中学生の平均正答率は、国語のB問題を除き全て全国平均を上回っています。

(2) 各教科の設問の特徴と改善策

【小学校】

国 語

国語Aにおいては、「慣用句（心を打たれる）の正しい意味と使い方をみる」「文の中で漢字を正しく使うことができるかどうかをみる」等の正答率が高い。「主語と述語の関係などに注意して、文を正しく書くこと」の正答率が低い。国語Bにおいては、「話す・聞く能力」を問う問題の正答率が高いが、「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができるかどうかをみる」問題のように、80字から100字以内にまとめる記述式の問題の正答率は低い。

書き手の意図や工夫などを読み取る力、文章の内容を的確に理解する力、条件に合わせて自分の考えを書く力等を育成することが必要である。

算 数

算数Aにおいては、「異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解しているかをみる」や「 180° の角の大きさを理解しているかをみる」等の基本的な問題の正答率が高い。しかし、単純な計算問題が減り、計算の意味や数量等の関係についての理解を問う問題が増えたため、「少数の除法の意味を理解しているかをみる」等の問題の正答率が低い。算数Bにおいては、「示された情報を理解し、条件に合う時間を求める（加法や減法の相互関係）」や「折り紙の輪の規則性を理解しているかをみる（倍数の意味）」の正答率が比較的高い。「メモの情報と棒グラフ等を関連付け数量関係を理解しているかをみる（記述式）」問題の正答率が低い。

数式・図形・数量関係に関する基本的な知識・技能を身に付けるとともに、活用する能力の育成が必要である。

理 科

主として「知識」を問う「生命に関する問題（ひなの観察）」は正答率が高い。主として「活用」に関する問題においては、「堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解しているかをみる」「海水と水道水を区別するために、2つの異なる実験結果を分析して考察できるかをみる」問題の正答率が高い。「実験結果を分析・考察し、その内容を記述する」問題の正答率が低い。

実験や観察結果を多面的に分析し、考察することができるようにする能力の育成が必要である。

【中学校】

国 語

国語Aにおいては、「文脈に則して漢字を正しく書くこと、読むことができるかをみる」「慣用句の意味を理解しているかをみる」「古典の文章と現代語訳とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる」等に関する問題の正答率が高い。しかし、「心を打たれる」の意味は理解しているが、指示に従って、この表現を使って、適切な文を書く問題は正答率が低い。また、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができるかを問う選択肢の問題では、「彼はせきをきったように話し始めた」の正答率が低い。

国語Bでは、「質問の意図を捉えることができるかどうかをみる」「話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問することができるかどうかをみる」問題の正答率が高い。説明文を読んで、「天地無用」という言葉を見たときに誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を記述させる問題の正答率が低い。

語句の意味を辞書などで確認するだけでなく、話や文章のなかで実際に使用するよう指導し、書く力を育成することが必要である。

数 学

数学Aにおいては、「数直線上に示された負の整数を読み取る」「絶対値が6である数を書く」「単項式どうしの除法の計算」「比例式」「見取図・投影図から空間図形を読み取る」等の問題の正答率が高い。「対頂角は等しいことの証明（選択式）」「一次関数において、 x の増加に伴う y の増加量を求める」「一次関数の意味を理解しているかをみる」「確率の意味を理解しているかをみる」等の問題の正答率が低い。

数学Bにおいては、「ダイヤグラム」の意味を問う問題の正答率は高いが、「ダイヤグラム」を参考に作成したグラフから、列車の通過時刻を問う問題の正答率が低く、無回答率も高い。「通常料金を a としたときの団体料金10人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算」等、百分率や文字を用いて数量の関係を説明させるの問題の正答率も低い。

知識や計算力を活用して、与えられた情報を適切に処理し、数学的に表現・説明する力の育成が必要である。

理 科

主として「知識」に関する問題においては、「食塩水の濃度や質量パーセントを理解しているかをみる」問題や「アルミニウムの原子記号」・「蒸散」を答えさせる問題の正答率が高い。「オームの法則により抵抗を求める」問題の正答率が低い。主として「活用」に関する問題においては、「豆電球とLEDの点灯の様子と電力の関係」「空気中を

伝わる音の速さ」等の正答率が高く、「蒸散以外の原因を答えさせる」問題の正答率が低い。

知識を活用する能力や実験等を通して科学的事象を探究する力の育成が必要である。

(3) 生活習慣や学習環境等についての児童生徒への質問紙調査結果（一部抜粋）

質 問	小学校	中学校
自分にはよいところがあると思いますか	81.7 %	74.5 %
先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか	84.3	74.2
将来の夢や目標を持っていますか	85.7	68.7
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	98.1	95.8
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	97.5	94.2
朝食を毎日食べていますか	94.2	90.0
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか	73.3	62.6
毎日同じくらいの時刻に起きていますか	85.3	89.2
家で、学校の宿題をしていますか	97.5	90.3
家で、学校の授業の予習・復習をしていますか	60.8	54.8
平日1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（1時間以上）	48.0	64.4
平日1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（30分以上）	37.8	24.3
家の人（除兄弟姉妹）と学校での出来事について話をしますか	79.1	73.3
今住んでいる地域の行事に参加していますか	44.3	23.3
地域のボランティア活動に参加したことがありますか（ある）	34.4	42.5
新聞を読んでいますか（毎日・週に1～3回程度読んでいる）	18.3	11.6
算数・数学の勉強は好きですか	61.2	39.3
算数・数学の授業は大切だと思いますか	94.5	78.8
算数・数学の授業の内容はよくわかりますか	81.4	50.6
理科の勉強は好きですか	78.0	55.2
理科の授業は大切だと思いますか	86.5	65.3
理科の授業の内容はよくわかりますか	85.0	62.9
観察や実験を行うことは好きですか	87.2	78.0
子どもの良い点や可能性を見つけ「褒める指導」を行いましたか	100	100

*数字は「当てはまる（よく行った）」「どちらかといえば当てはまる（行った）」と回答した児童・生徒・教職員の割合です。最後の「褒める指導」は学校質問紙からの抜粋です。

- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」児童生徒が多いですが、自尊感情・自己肯定感の更なる育成が必要です。
- 基本的な生活習慣がほぼ身に付いていますが、県・全国と比較しても「就寝時間」が少し不規則なことが気になります。
- 「宿題」の習慣は身に付いてますが、「予習・復習」の習慣が身に付いていない児童生徒が多くいます。家庭学習の時間も県・全国と比較して少ない結果が出ています。
- 「読書の習慣」「新聞を読む習慣」等が身に付いていません。特に、中学生の約半数が「読書を全くしない」と回答しており、読書活動の定着は大きな課題です。
- 地域の行事・ボランティア活動への参加が県・全国と比較して少ないですが、中学生になるとボランティア活動への参加は増加しています。
- 算数（数学）・理科に関して、中学生になると理数離れの傾向が強くなっていますが、「授業が大切である」と思う児童生徒が多いです。特に、数学に関しては、内容が難しいと感じる生徒が多く、理科に関しては、「観察」「実験」を楽しみにしている児童生徒が多いです。
- 教師は「褒める」指導を心がけましたが、児童生徒の「褒められた」という認識は十分ではありません。

3 今後の小松島市の取組方針

これまでの取組や調査分析結果を踏まえ、次のような取組を進めます。

- 調査結果を活用する
各校の結果を分析し、傾向と課題を把握するとともに、その改善策の検討を行い、「学力向上実行プラン」に反映させ、授業改善を図るよう指導します。特に、「予習・復習の習慣を身に付ける（家庭学習の習慣を確立する）」「読書の習慣を身に付ける」等、各校の取組の更なる充実を図ります。
- 教員の資質向上を図る
授業改善を図るため、市主催の学力向上推進員研修会や市研究紀要を通して研究体制を充実させ、教職員の授業力向上を図ります。
- 保護者への啓発活動を行う
基本的な生活習慣の確立や家庭学習の充実を図るため、保護者への啓発・連携を充実させます。
- 地域との連携を図る
学校教育活動の充実に向けた地域との連携をめざし、学校行事・教育課程の見直し・改善を行うとともに、学校評議員会や学校評価等を充実させるよう指導します。